社說

内務大臣の鑛毒視察

樺山内務大臣は數名の屬僚を率ゐて所謂鑛毒地方調査の爲めに出張して凡そ一周間を費やすと云ふ大臣の鑛毒調査果して效あるや否や我輩の輩から疑ふ所なり鑛毒事件は政府に於て既に委員を命じて目下正に調査中のよし委員の中には學者もあるべし技師もあらん銘々の專門より害毒の有無多少を調査して其判斷に就て結果に由り始めて判斷を下すべきなれども其判斷に就ては立法行政の上にも關係少なからず目下當局者の意見もあらんなれども實際に毒の有無多少を調査するは寧ろ專門家の事にして素人に分る可きに非ず即ち政府にても特に委員を命じたる次第なる可し然るに今度大臣が自から視察に出掛けたる其目的は何くに在るや大臣は學者に非ず技術家に非ずして其隨行の輩とても何れも行政一個の官吏のみなるが如し此一行が視察の爲めに一周間を費したりとて實際に何の得る所ある可きや若しも實地を目擊して素人に分る程のものならんには豫めより調査委員を命ずるの必要もなき筈なるに一方に委員の調査中にも拘はらず一方に國務大臣の資格に當る大臣が自から一地方一事件の視察とは何事ぞや或は其出張は實地を檢分して判斷の材に資するが爲めなりと云はんなれども專門家調査の結果にも待たず素人たる大臣が分りもせぬ視察して先入主となるみどもあらんには寧ろ判斷の初めにはならざるか先項來談地方の人民が多人數を催ほし陳情請願云々として屢々しく政府の門を叩きたるは文明の法律世界に如何にも理屈なきの事にして顧慮無用と思ふの外、當局者は嘗しく面倉して事珍らしく筋等の陳述を聽聞したるのみならず今又自身に出張とは隨分念の入たる次第なり實年三月地方海嘯の折、時の内務大臣が上方に在りて被害地方の出張を延引したりとて世間に其冷淡を云々したるものありしに反し昨年岐阜其他の洪水には當局者の厳密だ親切なりしとて世間の評判を博したるみどころ是れは（我輩の感服せざる所なるに今度の鑛毒事件は專門調査の上に非ざれば分らざるのみ調査の結果に由りて判斷する其判斷は嚴正一個唯學問上の原則に據るの外なきものにして大臣出張の必要は何れの點に在るか解す可らざる事なり曾し〳〵德川政府倒壞のとき駿府城内に守が所司代として京都に在勤、人民の訴訟を專らに聽子を綜切り其中に坐を占めて双方の眼鏡に耳を傾け一切萬事の顧を見て判決を下すの常なりしか民衆人をの次第を聞知して他の顔色を見るときは自分に疑惑の念を生じて公平を失するの恐れあるが爲めなりと聞へたる程人も記憶する所なる可し德川時代の人心の有樣、今日に學ぶべきものあるは如何川時代の方に於ては公平方正を以て自から誇す當局者手にして眼前の風光を多數の聽訴と見聞し自分の正直を以て事の眞相を達し眼前人の一生に關係する事件を判斷するものなりとは世間の評判なりしが上來述べたるものにして當局者の訴訟は如何なる事件に就ても